

凡例

vii

解説

〔梵動經〕解題	三
〔種徳經〕解題	九
〔究羅檀頭經〕解題	二二
〔堅固經〕解題	二五
〔裸形梵志經〕解題	一八
〔三明經〕解題	二〇
〔沙門果經〕解題	二二
〔布吒婆樓經〕解題	二四
〔露遮經〕解題	二六

本文

梵動經	本文	三
種徳經	本文	六九
究羅檀頭經	本文	八九
堅固經	本文	二二五
裸形梵志經	本文	一三七
三明經	本文	一五三
沙門果經	本文	一七三
布吒婆樓經	本文	一九五
露遮經	本文	二二九

凡例

vii

解說

〔梵動經〕解題	一
〔種德經〕解題	三
〔究羅檀頭經〕解題	九
〔堅固經〕解題	二二
〔偈形梵志經〕解題	二五
〔三明經〕解題	一八
〔沙門果經〕解題	二〇
〔布吒婆樓經〕解題	二二
〔露遮經〕解題	二四
〔露遮經〕解題	二六

本文

梵動經	本文	二九
種德經	本文	三一
種德經	本文	六九
究羅檀頭經	本文	八九
堅固經	本文	二五
偈形梵志經	本文	三七
三明經	本文	五三
沙門果經	本文	七三
布吒婆樓經	本文	九五
露遮經	本文	二九

注

梵動經 注	一三三
種徳經 注	一四五
究羅檀頭經 注	二五九
堅固經 注	二七五
偈形梵志經 注	二九三
三明經 注	三〇七
沙門果經 注	三二五
布吒婆樓經 注	三二九
露遮經 注	三三九
分担・初出一覽	三五四
『長阿含經』構成表	三五五
訳注者一覽	三五六

凡例

- 一——本シリーズは全六巻で、『長阿含經』二・三巻三〇經について、それぞれ解題・現代日本語訳・原文・注を収める。第5巻は『梵動經』、『種徳經』、『究羅檀頭經』、『堅固經』、『偈形梵志經』、『三明經』、『沙門果經』、『布吒婆樓經』、『露遮經』を収めた。本シリーズ全体の意図や方針については、第1巻のはしがきを参照されたい。また、『長阿含經』全体については、第1巻の解説に記した。
- 二——底本としては、高麗大藏經所収本（韓国東国大学校影印版、第一七巻）を用いた。校本としては、『大正新脩大藏經』第一巻所収本の校注に収められた宋・元・明三本、及び磧砂藏本（台湾新文豊出版影印版、第一七巻）を用いた。底本の文字を改めた場合は、本文に*を付し、注にその旨を記した。なお、参考までに、本文欄外に大正藏本の頁・段を注記した。
- 三——訳文は、訳者によって相違するところがあり、必ずしも無理に統一を図らなかつた。しかし、同一經典内では、主要な用語に関して可能な範囲で統一を付けるようにした。
- 四——注においては、必要に応じて略号を用いた。

(1)——全体に関する主要な略号は以下の通り。

赤沼『固有名詞辞典』 赤沼智善編『印度仏教固有名詞辞典』 法蔵館

凡例

vii

解説

『梵動經』解題	一
『種德經』解題	三
『究羅檀頭經』解題	九
『堅固經』解題	二二
『保形梵志經』解題	二五
『三明經』解題	二八
『沙門果經』解題	二〇
『布吒婆樓經』解題	二四
『露遮經』解題	二六

本文

梵動經	本文	二九
種德經	本文	三一
種德經	本文	六九
究羅檀頭經	本文	八九
堅固經	本文	二五
保形梵志經	本文	三七
三明經	本文	五三
沙門果經	本文	七三
布吒婆樓經	本文	九五
露遮經	本文	二九

注

梵動經 注	一三三
種德經 注	一三五
究羅檀頭經 注	一四九
堅固經 注	一五九
俱形梵志經 注	二七五
三明經 注	二九三
沙門果經 注	三〇七
布吒婆樓經 注	三二五
露遮經 注	三三九
分担・初出一覧	三五四
『長阿含經』構成表	三五五
訳注者一覧	三五六

凡例

- 一——本シリーズは全六巻で、『長阿含經』二二卷三〇經について、それぞれ解題・現代日本語訳・原文・注を収める。第5巻は『梵動經』、『種德經』、『究羅檀頭經』、『堅固經』、『俱形梵志經』、『三明經』、『沙門果經』、『布吒婆樓經』、『露遮經』を収めた。本シリーズ全体の意図や方針については、第1巻のはしがきを参照されたい。また、『長阿含經』全体については、第1巻の解説に記した。
- 二——底本としては、高麗大藏經所収本（韓国東国大学校影印版、第一七巻）を用いた。校本としては、『大正新脩大藏經』第一巻所収本の校注に収められた宋・元・明三本、及び磧砂藏本（台湾新文豊出版影印版、第一七巻）を用いた。底本の文字を改めた場合は、本文に*を付し、注にその旨を記した。なお、参考までに、本文欄外に大正藏本の頁・段を注記した。
- 三——訳文は、訳者によって相違するところがあり、必ずしも無理に統一を図らなかった。しかし、同一經典内では、主要な用語に関して可能な範囲で統一を付けるようにした。
- 四——注においては、必要に応じて略号を用いた。

(1)——全体に関する主要な略号は以下の通り。

赤沼『固有名詞辞典』 赤沼智善編『印度仏教固有名詞辞典』 法藏館